



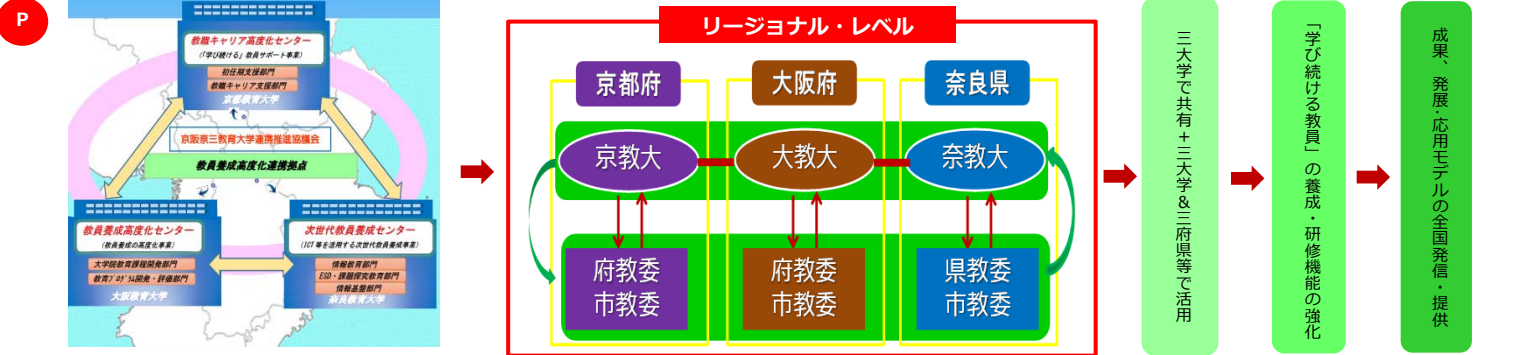
本事業の目的

本事業の目的は次の2点である。

- ① 高度専門職業人として「**学び続ける教員**」の**養成・研修の高度化と質保証に向けた課題**に 共同して取り組む。
- ② **リージョナル・レベルでの連携モデル**を構築し、**教員養成イノベーション**を創生する。

この2点を目指して取り組むとともに、取組の成果を**大学間連携による教員養成・研修モデル**として提供する。

Step 1 取組体制、取組内容・方法の明確化



Step 2 課題の焦点化と取組の推進

焦点化した6つの取組							事務局機能 (取組7)
取組1	取組2	取組3	取組4	取組5	取組6	取組7	
双方遠隔授業システムを用いた教育課程の連携及び教員養成・研修の高度化のための活用方法の共同開発	「学び続ける教員」をサポートするWeb 講義システムを活用した「修士レベル対応学修プログラム」の共同開発	ICT 活用能力を高めるためのテキスト、及びそれを用いた研修プログラムの共同開発	学校インターンシップや学生による教育支援ボランティアにおいて職能成長を促すための教材開発、及び大学連携によってそれをサポートする体制の構築	教員養成を担う人材育成のための博士課程構想と、そこで用いる教材の共同開発	研究大学博士課程の在学学生、修了生を対象とする「高度理系教員養成プログラム」の共同開発	【主な成果】 事務連携を推進するため施設保全業務、SD研修、図書館業務、職員相互交流、共同調達・契約事務及び汎用システムに関する6つの作業チームを中心に次のとおり共同事業を実施したこと、経費削減やサービスの向上に繋がった。	

平成27年度 中間評価
 【課題A】遠隔授業開講科目数がすでに頭打ちである。量に加え、**質の転換**を図る必要がある。
 【課題B】個別(各大学)の取組のアウトプットのみならず、**連携事業**としての新たな相乗効果の創出を図る必要がある。
 【課題C】各大学の**教員養成の仕組み**(組織、課程、方法等)の改善へ繋がるための検討と実践を図る必要がある。
 【課題D】**地域を超えた研修プログラム**(教員養成・研修の高度化のための)の展開に向けた展望を明確にする必要がある。
 【課題E】**教育委員会や学校現場の意見を踏まえ**、本取組の成果が**地域(京阪奈)**を越えて活用されるような仕組みの検討と実践の必要がある。
 【課題F】本事業終了後の**自立的な取組の継続**、**定着**に向けた、**学内資源の再配分**、**重点化**、**自己財源確保**に向けた取組を構想していく必要がある。

指標	取組1	取組2	取組3	取組4	取組5	取組6
○ 双方遠隔授業実施のためのインフラ整備 ⇒ 学生にとって負荷がからず対面授業に近似的、機器トラブルのない環境構築の実現	○ 「修士レベル対応学修プログラム」の開発と新たな教員研修手法の開発 ⇒ 京阪奈三教育大学発の「Web研修モデル」の構築	○ 体系的・系統的な教員のICT活用指導力向上のための教材群の開発 ⇒ テキスト・ビデオ教材40本	○ 三教育大学における学校インターンシップの実施 ⇒ 三大学での単位化 ○ 学校における教育支援ボランティア活動の三教育大学共同支援 ⇒ 「事前研修用ビデオコンテンツ」の作成(3本) ⇒ 三府県ボランティア情報ホームページの作成による支援体制の構築	○ 「教員養成を担う人材育成のための博士課程」に関する調査結果 ⇒ 報告書の作成と公開	○ 博士人材向け教員能力開発プログラムの開発 ⇒ 補助事業期間において、 基盤のプログラムに新たに5件以上の新規項目を追加改善して完成させる	○ 本プログラムの実施により、地域の理科教育に指導的役割を果たす教員の輩出 ⇒ 年間約2名程度の修了生輩出
○ 特色ある科目の提供と授業の質 ⇒ 特色ある科目を提供し続けること、他大と協働授業の実現	○ 「先生を“究める”Web 講義」動画コンテンツ開発数 ⇒ 60本	○ 教材群の公開と活用 ⇒ インターネットによる公開と、学校現場・教育関係企業・大学への配布	○ 学校における教育支援ボランティア活動の三教育大学共同支援 ⇒ 「事前研修用ビデオコンテンツ」の作成(3本) ⇒ 三府県ボランティア情報ホームページの作成による支援体制の構築	○ 「教育実践デジタルライブラリー」の作成 ⇒ 録画資料30本以上 ⇒ 活用事例集の作成	○ 本プログラムの実施により、地域の理科教育に指導的役割を果たす教員の輩出 ⇒ 年間約2名程度の修了生輩出	○ 本プログラムの実施により、地域の理科教育に指導的役割を果たす教員の輩出 ⇒ 年間約2名程度の修了生輩出
○ 三教育大学間における学生、教職員の研究会、研修会の開催、事務連絡を含めた双方遠隔テレビ会議の実施 ⇒ 定期的な研究会・研修会として年6回以上開催	○ 「先生を“究める”Web 講義」受講登録者数 ⇒ 700名	○ ICT活用指導力向上のための大学での活用と普及 ⇒ 京阪奈大での教材群の活用、全国10以上の大学への普及	○ 学生による自主的教育支援グループ活動の三教育大学共同支援 ⇒ 双方遠隔テレビ会議システムを活用による成果発表並びに支援の実現	○ 「教育実践デジタルライブラリー」及びその活用事例集の完成	○ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成	○ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成
○ 本取組の成果の活用・発展的活用 ⇒ 三教育大学以外へ環境構築の手法並びに成果の提供 ⇒ へき地学校への教育支援等並びに教育実習生指導への活用 ⇒ 教員免許状更新講習等への活用 ⇒ 教員研修への活用	○ コンテンツを用いた反転研修型教員免許状更新講習の試行 ⇒ 3講座	○ ICT活用指導力向上のための教員研修の実施 ⇒ 教材群を用いた校内研修や免許状更新講習(反転含む)などを5回実施	○ 三大学ともに「学校インターンシップ」に関する科目の単位化実現 ⇒ 教育支援ボランティア活動のための「事前研修用ビデオコンテンツ」の作成と活用 ⇒ 三府県ボランティア情報ホームページの作成と運用 ⇒ 双方遠隔テレビ会議システムを活用した三教育大学間学生活動の実現	○ 大学院博士課程設置に係る課題の整理と設置の可能性、海外での状況を含めた「大学院教育課程開発のためのシステム開発調査研究報告書」の完成 ⇒ 「教育実践デジタルライブラリー」及びその活用事例集の完成	○ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成	○ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成

平成28年度 フォーラム(柳澤好治 教員養成企画室長より)
 ① 「**連携**」した成果を、**確実に示すこと**。
 ② 「**教員養成協議会**」や「**教員養成指標**」の最大限の活用。
 ③ 他大学・学部と「**同レベル**」や「**横並び**」からの脱却を。
 ④ 大学全体が、「**何ができるようになるか**」の**発想の転換**を。

主な成果(詳細は別添資料)	取組1	取組2	取組3	取組4	取組5	取組6
・ 双方遠隔授業のインフラ確立と北大への提供 ・ 特色ある教員科目を三教育大学間で配信・共有 ・ 三教育大以外への配信(鳴教大・京教大間) ・ アクティブ・ラーニング、特別な支援を必要とする学生への対応 ・ 山間へ地等の教育・研修支援 ・ 教職大学院生の実習指導 ・ 教員免許状更新講習を三教育大学を結び実施	・ 「Web研修モデル」の構築 ・ 現職教員が自宅等で自主研修できるビデオコンテンツ作成 ・ ライブ型コンテンツの量的・質的充実 ・ 反転研修型研修システムの開発 ・ 京都市教委での10年期研修で活用 ・ 同コンテンツを用いた反転研修型教員免許状更新講習の実施	・ 「教員養成・研修テキスト-ICT活用能力UPのためのハンドブック」の作成と全国提供 ・ 同テキストを活用したICT活用指導力向上のための教員研修の実施 ・ プログラミング、3Dプリンタ活用等、学生も含めた研修・公開講座の実施 ・ 同テキストと「先生を“究める”Web 講義」用ビデオを活用した反転研修型教員免許状更新講習の実施	・ 三大学ともに「学校インターンシップ」に関する科目の単位化実現 ・ 教育支援ボランティア活動のための「事前研修用ビデオコンテンツ」の作成と活用 ・ 三府県ボランティア情報ホームページの作成と運用 ・ 双方遠隔テレビ会議システムを活用した三教育大学間学生活動の実現	・ 大学院博士課程設置に係る課題の整理と設置の可能性、海外での状況を含めた「大学院教育課程開発のためのシステム開発調査研究報告書」の完成 ⇒ 「教育実践デジタルライブラリー」及びその活用事例集の完成	・ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成	・ 高度理系教員養成プログラムの完成 ⇒ 高度な知識・技能を身に付けた研究大学博士課程学生及び博士取得者を、現代の学校現場にふさわしい教員として育成 ⇒ 大阪府教員採用試験における特別措置(加点)の実現 ⇒ 本プログラムによる修了生の教員就職の実現及び教員ネットワークの形成

Step 3 応用・発展モデルの開発・提供

【教員免許状更新講習における地域を超えた教員同士の学び合い、及び受講生増大問題の解決に向けて】
 ・ 双方遠隔授業システムを用いて複数会場を繋ぐ実施事例とモデルの提供
 ・ 双方遠隔授業システム+ビデオコンテンツを共に活用した実施事例とモデルの提供
【双方遠隔授業システムやビデオコンテンツを活用した、多忙な教員への「働き方改革」推進と教育現場のニーズに対応した質の高い研修の実現に向けて】
 ・ 双方遠隔授業システムにより、僻地等に勤務する教員を含め、現場を離れることなく学校で受けられる研修の実施とモデルの提供
 ・ 修士レベルのみならず「初任期」・「中堅期」レベル用コンテンツの作成と配信
 ・ 「ICTハンドブック」をテキストとする研修の実施により、全国の教員に対するICT活用能力のさらなる向上
【新学習指導要領、新免許法への対応に向けて】
 ・ 新学習指導要領「プログラミング教育」に対応した「ICTハンドブック」の活用モデルや、新免許法「学校インターンシップ」に対応したビデオコンテンツの活用モデルの全国提供
【さらなる教員養成の高度化に向けて】
 ・ 教員養成大学と研究大学との連携による高度理系教員養成プログラムの全国展開
 ・ Ed.D設置構想への情報提供、教員養成を担う人材育成のための情報提供、及び博士課程で活用できるデジタルライブラリー活用事例の全国提供

以上より、以下の事業目的が実現できた。

- ① 「**学び続ける教員**」の**養成・研修の高度化と質保証**
- ② **リージョナル・レベルでの連携モデルの構築**
- ③ **教員養成イノベーションの創生**
- ④ **大学間連携による教員養成・研修モデルの提供**